

新年を迎えて



写真提供(株)中工務店

関西支部への期待 本部会長 矢野 克己



明けましておめでとうございます。JSCAが設立されて本年は丸10年となります。この間、常に関西から多くの刺激と強力なパワーが当会に注がれて来ました。そのお蔭で全国組織としてのバランスをとってこられた気が致します。東京一極集中から分散の時代と言われていますが、そのことを実地に実践してくれたのが、当会の関西支部でした。

日本の建設界は今、世界史上みられなかった大建設時代の中に居るのではないかと思います。その中にあって、関西のダイナミックな動きは、東京に住む私にとって驚異と言うより、脅威的ですらあります。この恵まれた社会に在って活躍中の関西支部の皆様に大きい期待をもっておりまます。

協会の目下の大きいテーマは専門士と設計指針であります。これらのことについては、目下夫々の委員会で年度内骨組作りを目指して鋭意検討中です。総会でその内容が発表され、全員で討議されることでしょうが、是非共、関西の方々の生の意見を聞かせて欲しいと考えています。関西の風土は、行動派であり、実際的な判断が出来る伝統があると思います。

両テーマ共、唯單に作り発表するだけでなく、如何に上手く活かすかが重要です。議論好きの東京にない良識ある行動力と、それを認める社会があると思います。

これまで関西支部は業務報酬委員会で重要な役割を果されました。又支部独自の視察旅行、研究会や同好会等々、眼を見張るものがありました。又、法令建築事務所の動きに見られる弾力性のある法運営の社会的環境もあります。

これらを併せ考えますと、関西支部がこれから当会で果される役割は益々重要となってくる筈です。年頭の挨拶をする機会を与えて下さいましたこの場をお借りし、感想とお願ひを記させて頂きました。

新年を迎えて 関西支部長 久徳 敏治



少し遅れていますが、新春のご挨拶を申し上げます。昨年にも増して繁忙をいたしておりますが、年初の湾岸情勢の悪化にともない、多少先日の予測がつきかねる事態とも至りました。ものを造り出すにも、ものをそこなうにも、私たちの建築界はともに深いかかわりをもっておりまます。ここ十年、会のユニークな存在として、また各支部の柱としての果たしてきた役割は大きいものがあります。またこと関西は未曾有の建築ラッシュに支えられ、町並は日々に新たになり、次々と新しい企画が萌芽しております。花の万博を成功裡におさめ、少しもたつきながらも新関西空港は着実に前進しております。このビック・プロジェクトを要として、周辺の整備も着々と進みつつあります。この好機に私たち建築設計業務にたずさわる一員として、その持てる力を、持てる技術をいかんなく発揮し、建築を支える柱として建築界は勿論のこと、広く社会にその存在を根ざかせる大切な時期とも考えられます。今年も支部は色々の企画を持っておりますが、技術向上のための研鑽会、会員親睦の各種の催しを通じて、さらなる発展を期待したいものと考えております。忙しさのなかでこそ、新しい発想や、新たな行動が芽生えるものです。結果だけに頼らず、設計とは、ものを造るとはの原点に戻って、私たちの役割を見直し、広くその職能を自覚いたしたいものです。会の目下の急務はその職能上のモラルの確立であり、また社会的地位の確立と受け止めております。このために、会長の祝辞の中にもふれられておりますが、構造設計規範の制定であり、構造専門士法の実行であると考えております。会員各位の深いご理解とご協力をお願ひいたします。

JSCA設立10年を迎える、関西支部としても構造技術者の職能上のモラルと技術の向上を目指して努力しているところです



西村 征一郎

私が所属している大学では、伝統的に建築デザイン系の卒業生が多い。

また入学者のアンケート調査によると大半がデザイン志望である。

もちろん構造系の必修の講義はあるが、学生達は熱心でない様子である。3年生後半からゼミに分属するが、デザインが下手だから構造でもやろうかという不心得者すらでてくる。建築をとりまく状況が、あまりに表層的であることに大きな原因があると考えられるが、根本的には建築学科の卒業生が銀行や不動産会社に流れているのと同様に、企画や基本計画（デザイン）が詳細設計、構造や設備設計より上位にあるという認識であろう。学会誌や建築雑誌にも最近は構造設計者の名前が明記されるようになり、構造設計の意図の解説等もみられる。しかしこれらは巨大な架構や特殊な形態の建築に

が、今回は新年号として、教育者・学生・建築家・作業所所長・設備業者・材料メーカー等建築関係各界から意見や感

想をお願いし、構造技術者へのメッセージとして特集しました。

樹木があり、それを残そうという歴史的景観を配慮した設計意図である。樹心から3M程の余地を設けL字形の平面で計画を進め、実施設計で構造は外注された。当然この設計意図は十分伝達されると信じていたが、施工段階になって驚いた。L字形平面の両端を結ぶよう地中梁が設計されていたのである。当然樹に当る。簡単な株式構造であるから地中梁の図のチェックを怠っていたのは言い訳にもならないが、なぜL字形なのかという基本的な意図が適確に伝わっていなかったのである。計画設計者（デザイナー）と構造設計者の建築設計に関する意識のズレがさられだされた思いがした。

デザイナーと構造家の間に互に引寄せよう力がなぜ働かないのか真剣に考えてみる必要がある。

さいわい応急処置によって、榎の大樹は今年も元気である。

（京都工芸繊維大学工芸学部住環境学
教室助教授）



井関 千種

まもなく卒業を迎えますが、私は確固たる意志を持って大学へすすんだわけでもなく、ただ、小さい頃からの「何か未来に残る大きなものを自分自身の手でつくりたい」という漠然とした夢を建築という形で実現できれば…と思い、建築学科を選んだのです。

そんな“今どきの大学生”をしている私が、4年間大学で建築学を学び、来年4月より組織の中に入り何ができるかを考えると実際不安でたまりません。4年間の大学の講義は、社会へ出て勤めるための実践教育ではなく、学問教育が主体だったからです。

卒論は構造ですが、それまでの設計演

習で、自分自身、構造のことが全々わかっていないことを痛感しました。レイアウトする時から構造は重要で、形が出来、空間を創造するためには、もっともっと構造を勉強して自分のものにしていかなければならぬと思いました。しかし実際は、1つのことでたくさんの本とコンピューターとにらめっこしている状態です。そして大学での構造設計は、梁や柱の鉄筋量をマニュアルどおり決めていくだけで、「なぜこうしなければならないのか」という疑問を持ち、それをつきつめていく余裕もありませんでした。

建築は、自然や人間、全てを相手にする総合的なもので大変奥が深く、まだまだ未知の世界で、社会に出てからが本当の勉強であると思っています。

最近は超高層や大規模なプロジェクト

などバラエティーに富み、技術的にも大変複雑になって分業化の傾向にありますが、そのいろいろなものを総合して1つの形、空間を造りだす建築のおもしろさを実感できるようになります。するために1つの事だけにとらわれず、幅広い知識を身につけ、いろんな事に興味を持つていきたいと思います。建築の構造だけでなく、経済のことや設備、全てのことをいろんな角度でとらえる眼を持ちたいです。

そして自分の手がけたものが形となり、社会に受け入れられるよう、今は1つ1つの技術を自分のものにしていくことを考えています。自分の夢が実現するために…。

（今春浜松南大学を卒業し、大林組本店
設計部へ入社予定）

●支部の動き

- 2/14 支部役員会
- 12/10 広報委員会
- 技術委員会分科会活動
- 鉄骨 12/26
- 基礎 6/5, 8/7, 10/9, 12/5

耐震設計 1/22

構造計画 12/11, 2/12

P C 1/30

• 講習会「入門SRC造」2/19於鉄鋼会館

担当 鉄骨分科会

特別講演 「最新の混合構造」

松井 千秋 九州大学教授

参加者 93名

●東京の動き

- 12/17 第3回理事会
- 1/28 第7回運営会議



若林 広幸

経歴が示す通り私は元々がプロダクトデザインの出身です。小さなインテリアグッズをデザインしていたのですが、そのうちインテリアや空間全体に興味をもちはじめ、知らないあいだに建築の世界にのめり込んで現在にいたっているという訳です。思い返せば高等学校の時、建築科へ進んだ親友がいたのですが、その教科書の内容を見せて貰い、こんな難しい学科を選ばなくて良かった、と思った事を覚えています。つまり建築イコール工学と言うイメージが強く、数学や物理にたけていなければ建築は出来ないと思い込んでいましたし、ましてやそんな難しい世界に入って行くとは夢にも思っていませんでした。と言う訳でとにかく構造の事はそれほど詳しくないまま現実に至っているのが正直なところです。ただ構造にとって数式や理論の問題も重要ですが、やはり最も重要な事はバランス感覚であり、バランスのとれた建築は構造的にも必ず処理が出来ると思っています。いいかえればそれは意匠上の問題と密接な繋がりをもっていると言うことです。構造がデザインの中でどのように生かされているかは大変重要なことだと思います。

います。モダニズムの建築は機能美を目指したものでした。それはストラクチャーをデザインの重要な要素としてとらえる考え方でもあった事はいうまでもありません。事実、私は代々木の体育館は構造とデザインがうまく融合したモダニズム建築の傑作だと思っています。おそらく構造家にとってこれ程やりがいのある仕事は無かったのではないかでしょう。

しかし、現実の都市を眺める時、モダニズムが本来持っていたビジョンは歪曲され、機能的に合理的にといった経済にとって都合の良い部分のみが一人歩きしているのがわかります。特に大規模な建築に成れば成るほどその傾向が強くなっています。そのほとんどは構造を表出させたダイナミックなデザインの在り方はなく、どちらかと言えば構造を裏方に隠してしまう考え方があり、表層のデザインにのみ終始しているのです。これはむしろ意匠家の責任だと言えなくもありませんが、構造家にも責任が無いとはいえない。いずれにしても多くの場合、設計システムが分業化されすぎてしまっております、それぞれに別の動きをしている事も一因として考えられます。ましてコンピューターの発達はマニュアル化を押進め、マニュアルから外れたものは解くのが大変面倒だと言う理由から、デザイ

ンが否定されてしまう事もしばしばあります。その様な時、構造家の方はただ単に否定するのではなく、そのデザインのコンセプトを理解し、構造家の観点から新しいデザインの提言をどしどし行なうべきだと思います。モダニズムの思想がある意味で崩壊してしまった現在の建築は、そのほとんどが表層建築になる傾向にあります。そして意匠家の多くは私と同じくイメージ優先型であり、ましてや構造の事などほとんど分っていない連中も少なくはありません。そういった中で構造家の人々の提言こそ新しいデザインの方向性を切り開く重要な鍵に成るのではないかでしょうか。（建築家）

略歴と主作品

- 1949年 京都市生まれ
1967年 (株)たち吉に入社
1972年 独立、インテリア設計事務所を自営しつつ建築を学ぶ
1982年 若林広幸建築研究所設立
・ライフイン京都（S D レビュー入選）
・美食三昧菜館エスカミューズ（大阪まちなみ賞・大阪府建築士会長賞・ナショナル賞・S D レビュー入選）
・チルドレンミュージアム（商空間優秀デザイン賞）

池田 秀行

建築の構造と設備の立場を考えた場合、両者はお互いに厄介なもの以外の向者でもないと言っても過言ではない。それぞれの計画・設計・施工の各段階でそれらはお互いに索制し合い、特に技能面ではそれぞれのフレキシビリティを制限し、またコスト面からはお互いの物的構成要素の増加に貢献し合いコストを押し上げることとなる。設備設計の立場からすると時として構造的な制約はその建物の設備に致命的な影響を与える場合がある。即ちコスト面では設備の構成要因である各種設備機器の系統・台数を増加させ、また熱媒の輸送路である配管・ダクトの系統・ルートを複雑にしその量を増大させることとなる。これらは単に設備のイニシャルコストのみならず、そのランニングコストをも増加させる場合が

多い。次に建築物は多くの場合築後十年も使用される訳であるが、どの様な種類の建築物でもその後の建物用途の変更・レイアウトの変更への対応を設計時に考慮しておく必要がある。その場合構造的な制限はその変更の規模がそれ程大規模でない場合にも設備システムのフレキシビリティを大幅に制約し、極端な場合設備的対応の面よりその変更自体を不可能なものとしてしまう場合さえあり得る。

この様に構造と設備は全く相反する立場にある上にもう一つライフサイクルの長短という重大な相違点がある。建物の主要構造はおおげさに言えば、ほぼその建物の存在する限りというライフを有するのに対し、設備システムは老朽化、システムの陳腐化という点よりせいぜい10～15年程度の耐用限度しか有しない。

一つの建築物を構成する全く性質の異

なる構造と設備の各々のどの部分を優先しうる調和を図るかは構造設計に携わられる方々にとり頭を悩ましておられるところであろうとは思うが、設備サイドより見ると構造の分野は余りにも専門的で、おおげさに言うと他の分野からすると不可侵的にさえ思える場合がある。構造家の方々から見れば面倒で邪魔者以外の何者でもない建築設備であろうとは思うが、建設後の用途変更や設備の維持管理、設備のイニシャル・ランニングコスト等への影響も考慮頂き、設備の設計サイドと充分な情報交換、意志交流を図った上で構造設計を進めて頂ければ幸いである。

以上まとめもなく誠にお恥かしい限りであるが敢えて苦言ということでお許し願いたい。

（新菱冷熱工業(株) 大阪支社技術部）

小西 雅彦



建築構造設計専門の方々へのメッセージとすることありますが、私は入社以来28年間作業所勤務のため作業所のことしか解りませんので、作業所長として施工の立場から構造担当者の方々へ、今後設計されるに当り少しでも考慮して頂ければ、施工サイドとしても品質・効率が向上し更にコスト低減にも結びつくのはと思い、日常作業の中で考えられる一端をのべさせて頂きます。

最近の建設業界は皆様ご存知のとおり非常に活況で、作業所としても従来の1.5倍以上の仕事量を消化しなければならず、作業所員や作業所労働者の不足が深刻な問題となっております。特に軸体職（大工、鉄筋、型枠）鳶土工、左官、タイル工が不足しております。また鉄骨

ファブにおいても発注してから納品まで6～7ヶ月かかるというのが現状であり、仕事を消化してくれる業者を探すのに苦労しております。これらの問題点に対処するため、私共は出来る限り省力化、複合化を強力に計り、更に安全性を高めるよう施工計画を立て実施致しております。

具体的には、軸体職の不足に対処するため内外壁のP C a化、複合型枠（大型型枠）の採用、梁・階段のS造化やP C a化、床版にはキーストンプレートとトラス筋を一体化した鋼製型枠、フロアーパネル半P C aを含むP C a化の採用、更には建築軸体と設備との一体化を計るべく努力致しております。これらの工法を推進し省力化を計るために、構造設計上で次の様な配慮をして頂けば有難いと思っております。

・杭工事においては、杭の種類、径の種

類を少なくする。

・基礎工事においては、堀削深さを浅くする。一様厚のフラットラブの採用により鉄筋施工の能率向上を、また基礎梁を要する場合はその成を2m以下にして安全性と施工能率の向上を計る。

・鉄筋・型枠・コンクリート工事においては、柱梁断面の均一化、梁にはハンチをつけない。主筋本数の標準化、材料面においては、納期短縮を考え市況品を採用する。

・鉄骨工事においては、ロール材の多用による工場加工工数の低減、自動化率の向上。

各工事毎に思いつくままのべさせて頂きましたが、今後設計される上で少しでも考慮して頂ければ幸と存じます。

(株)竹中工務店作業所々長)

八木 勝

“構造家へのメッセージ（苦言・要望・期待）”と言うタイトルで文書を書け、という御依頼であるが、高炉メーカーのエンジニアリング部門の一員として、日頃鉄骨を相手に、鋼材メーカーとファブリケーターとの中間地帯で仕事をしている者の、以下の“ばやき”の中から、苦言はともかくとして、要望なり期待なりを御覧頂きたい、と考えている。

我々の業務（役目）を、技術的側面からのみでいえば、“構造設計者の意図されたものを理解し、適正な材料を使用し、適性な製作者が、適正な製作方法により、要求される期間内に、要求される品質を満足させる製品を造るための管理”という事になるが、年間需要が1,200万tとも1,300万tとも言われる現在の過熱した鉄構業界にあっては、“適性な製作者の選定”一つを取上げても、これ

が又大変な事である。

好況下の業界ではあるが、経営者は常に一步先の来たるべき不況時に備えており、一時的な目先の損得もさることながら、それよりも従来からの数多くの顧客をキープして行きたいという姿勢を持っている。この姿勢が受注判断にも反映されており、単価は良くても複雑で工数の掛かる物件よりは、比較的簡単な物件を数多く受注したい、という事になってくる。ここ迄はファブリケータのエゴかもしれないが、喜んで引受けてくれる物件には・架構が単純明快であり、同じパターンの繰り返しが多い・設計図を見れば、各部のディテールがすぐ理解出来・保有している工作機械の適用が容易であり・溶接が楽に出来、ロボットの使用も可能である、といった共通した要素があり、それなりに頷けるものがある。

これを構造設計面から逆に考えると、これらの物件は、●平面的、断面的に考えてシンプルでかつバランスの良い設計

●部材節点共力の流れがスムーズ●経済性の良い構造デザインという事になる。又品質面から考えても、溶接が楽に出来るという事は●無理のない溶接設計であり、●資格を有する通常の溶接工の技量で、背伸びをしなくとも、無理なく仕事が出来る、●従って、溶接欠陥が発生しにくく、品質UPにつながり、●手直しによる工期的ロスが少ない、つまり、構造設計的に良くバランスのとれた建物は、力の流れがスムーズなのは当然としても、品質的・コスト的・工期的にも有利な要素を備えているのかなあ、と思つたりしている。

適性な製作者の選定が、最近は非常に難しい、という話が脇道にそれたようであるが、鉄構業界の中で、それなりの立場で頑張っている者の“ばやき”として御容赦頂きたい。

(川崎製鉄(株) エンジニアリング事業
部建築技術部大阪建築技術室部長)

事務局よりのお知らせ

● JSCE 関西構造家賞について

本年度のJSCE関西構造家賞の対象となる業績を募集しています。会員の推薦あるいは自薦でも結構です。表彰の対象は建築構造に関する学術、技術に貢献した会員個人あるいはグループの業績となっています。この業績とは建築構造の設計・監理、研究、開発、

施工等に関するもので、会員の皆様がここ数年に手懸けたもの内、「これは」と思う業績を是非応募して下さい。

選考資料は業績の内容を説明できる資料（頁数、サイズは不問）とその梗概および推薦の場合は100字程度の推薦文を添付して下さい。期間は3月1日～3月31日です。送り先は支部事務

局です。尚内容についてのお問い合わせは、事務局侯野（竹中工務店 TEL 06-252-1201）迄して頂ければ結構です

●平成3年度支部総会について

来る5月10日（金）建設交流館にて支部総会を開催します。事業計画、予算案、役員改選等が議題です。併せて定期研究会も実施します。ご予定下さい。

日本建築学近畿支部
シンポジウム「震度6、その時どうなる」を聞いて

長谷川 博

このシンポジウムは日本建築学会近畿支部主催であり、当会関西支部も協賛しているもので、12月5日建設交流館グリーンホール百数十人の参加のもとで開催された。

講師は大阪工業大学の鳥海・竹内両先生、大阪大学の岡田・井上両先生、神戸大学の室崎先生、京都大学防災研究所の土岐先生で、久徳支部長と鴻池組の樺原氏の司会で進行した。

蛇足ながら「震度6」は1949年に気象庁震度階として無感から激震までの8段階に定められた上位から2番目の烈震に相当し、加速度で250~400ガルとなっている。

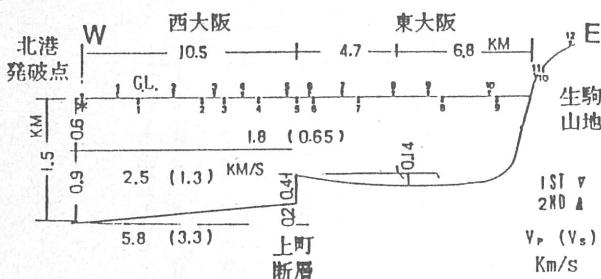
震度階は被害状況を目安にして規定しているため、当時とは建物構造や都市形態も大きく変化しており、そのまま現在に適用することは多少問題もある。

幸いなことに大阪を中心とした地域は長いあいだ大地震を見舞われていない。しかし近い将来に大地震が起こらないという保証は全くない。

内陸地震は過去のデータからもその周期性について規則的なものは見出せないが、海洋地震については大阪に被害をあたえるものは80~100年周期で規則的に発生し、しかも同時に短期間に連続して発生するケースが多い。これをもとに類推すれば次の大地震まで20~40年しか残されていないというショッキングな話もあった。

大阪平野の地震動特性を知るために地震基盤や上部堆積層についての調査が鳥海博士らにより1988年に発破を用いた実験が行われ、貴重な資料が提供された。

それによると、大阪平野の地盤断面を東西方向でみると、地震基盤の深度は淀川河口に近い北港で1.5kmあり東に向かってゆるやかに上がり、上町断層の崖の高さは0.4km、さらに東へやや急勾配の下りがあり、東大阪中央部で鍋底となって生駒断層へと続いている。



大阪平野の地震波形の特徴は、主要動が到着した後に周辺の山地から堆積層を水平伝播する表面波が存在することである。特に震央距離が200km以内では顕著に現れ「あとゆれ」と呼ばれている。

地震動の断続時間、卓越周期、加速度等も場所によって大きく異なる。平野中央では断続時間が長く、加速度においても增幅効果によって山地の数倍にもなる。

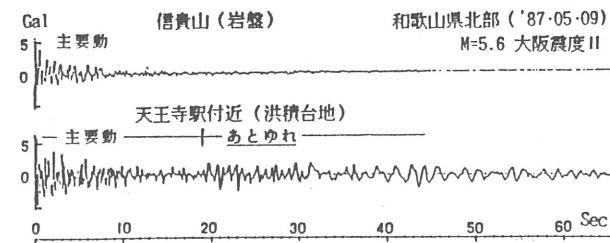
また、大阪府の防災計画での想定地震動として、

遠距離地震（東海地震） M=8.2

中距離地震（紀伊半島沖地震） M=8.4

近距離地震（琵琶湖西海岸地震） M=7.5

の3ケースをとりあげ、大阪府下の予想震度や工学的仮定のもとに算出された、木造、非木造に対する震害とその分布等興味深い資料が紹介された。



地震時にパニックは発生するのか。その時の人間の心理状態や行動についても過去の事例から予測がなされた。

災害に直面したときの人の心理は理解できるすべもなく、まして大地震に遭遇すれば個人単位ではなく群衆の行動となって現れる。その時どのような状態になるのだろうか。

避難の面についても真剣に考える必要性を痛感した。

昔から地震と火災はセットで考えられている。過去の例からも地震に起因する大火の被害は相当なものである。

近年建物の不燃化によって、都市の耐火性能は大幅に向上しており、コンロやストーブ等の火災発生源も耐震消火機能を備えてはいるが、あらゆる面で現状では不完全といわざるを得ない。今後ますます不燃化、延焼阻止機能を強化し火災に対する安全性の確保が肝要である。

日常生活にとって水、電気、通信やガスは欠かせないものである。これらが全く使用できずには何日間耐えられるだろうか。火災は多少とも減少の可能性があるとしても、これらのライフライン設備は増加する一方であり、被害も増加傾向にあるように思う。

震害の復旧は、個別のダメージの差もあるが、電気とガスが比較的早く、ガスの復旧に長時間要している結果を事例を通して発表された。

以上、私見をまじえて概要を述べたが、今回のシンポジウムは地震動から被害を受けた場合の人や物の挙動にいたるまで広範囲な内容で、大阪を対象として工学的見地からの災害予測が行われた。

構造設計に携わっている私にとって、今回のようにかわった角度の話題に接して戸惑いを感じた。

被害をうけることは、社会的にはもちろん経済的にも多大な負担がともなうことは否めない。

いつ起ころかわからない、あるいは起こらないかもしれない地震にたいして、構造設計者は上手に喧嘩したり、時には手をつなぎ災害を最小限に食い止めることが責務である。

(榎大林組 神戸支店建築設計部副部長)

高木幹祐

(勤) 日鐵建材工業㈱
(一級建築士事務所) 顧問
(趣味) 謡曲、囲碁



16年振りに東京から大阪へ帰ってきました。現在は、「デッキプレートとコンクリートとの合成スラブ」の無被覆耐火構造の、健全な発展と普及のために、(社)鋼材俱楽部の「合成スラブ研究委員会」の運営にたづさわっています。会員諸兄のご指導をお願い申し上げます。

小梶延一

(勤) 長谷工コーポレーション技術研究所
(趣味) マラソン、テニス、ゴルフ、水泳



来年の'91篠山ABCマラソン大会に向けて猛練習の毎日です。マラソンを通じて体力の衰えを知り、走り終えた後に、まだ年相応に走れるんだという自身が湧いてきます。やはり、何事もマイペースが大切であると身にしみて実感している今日このごろです。JSCAが魅力的な組織として、今後共大いに発展することを願っております。

櫻井政悟

(勤) フジタ工業㈱大阪支店近畿圏設計部
(趣味) 囲碁



建築構造設計に携わってかなりの年数となりました。なんとはなしの「たが」を感じてしまいます。囲碁に着眼大局・着手小局なる言葉があります。要はグローバルな視点を忘れないことと思われます。建築設計はベースでしょうが、建築を忘れた視点を持ちたいと思う今日この頃であります。

奥村 勇

(勤) 神大林組本店建築設計第六部
(趣味) 音楽(クラシックからカラオケまで)、ゴルフ



日本建築構造技術者協会として発足するにあたり、樋口部長の強い推めも頂いて入会させて戴くことになりました。技能職者の不足、高齢化が進み何かと難しい建築の業界でありますが、少しでも満足の出来る構造を実現したいと思っています。定年まで後僅か、この仕事にいる間、よろしくお付合いの程お願い申上げます。

佐々木照夫

(勤) 竹中工務店大阪本店設計部構造課
(趣味) スポーツをやること、見ること



構造設計にたづさわって長くたちましたが、その間、建築の空間創造に面白さを感じて來ました。社会環境は急速に変化し建築界も若年層の共感を伸々呼べなくなっているのが現状だと思います。「建築とはいいいものだなあ」と認識されるような空間構成を目指してやって行きたいと考えています。よろしくお願ひ致します。

北島哲男

(勤) (有)アルプ設計
(趣味) ばんやり時をすごす事



出来るだけ鉛筆を使わずに、計算書や図面を完成させるシステム作りに熱中しています。CAD入力やワープロを駆使することが考えられますが、死蔵されている高齢熟練技術者の優れた判断力の積極的な活用が可能になるのではないかとの夢をもっています。

同感の士のご連絡を乞う。

ゴルフ 第14回 J S C A会成績表

平成2年11月27日
於 伏尾G.C. 曇り

参加42名 ★印は初参加						
	氏名	南	西	GROSS	H.D	NET RANK
1	和田 勉	51	49	100	34	66 優勝
2	長谷川 敦史	49	47	96	30	66 2位
3	徳永 雄一郎	54	47	101	33	68 3位
4	白下 邦 弘	52	43	95	25	70 4位
5	川村 佳 则	47	42	89	18	71 5位
6	松谷 雄	45	45	90	18	72
7	三好 恭	52	56	108	36	72 7位
8	大岡 一 夫	50	46	96	22	74
9	渡辺 博	48	48	96	22	74
10	伊賀野 孝	47	48	95	20	75 10位
11	★多賀野 公 衛	49	44	93	18	75
12	勝 丸 文 彦	51	49	100	24	76
13	広 滕 武 雄	46	39	85	9	76
14	水野 富 進	57	47	104	28	76
15	福田 国 康	49	44	93	17	76 15位
16	五十嵐 定 義	54	54	108	30	78
17	南戸 義 昭	50	50	100	22	78
18	青木 仁	43	45	88	16	78
19	岡田 英 昭	50	47	97	19	78
20	浅沼 一 勝	45	50	95	16	79 20位
21	中島 久 久	48	51	99	20	79
22	梅木 信 重	43	41	87	7	80
23	須藤 弘 計	47	47	94	14	80
24	木下 弘 文	56	48	104	23	81
25	長田 正 雄	52	52	104	22	82 25位
26	馬瀬 芳 知	46	43	89	7	82
27	谷 尾 康 弘	55	48	103	21	82
28	西 座 広 明	55	49	104	22	82
29	保野 博	53	53	106	23	83
30	眞理 達 夫	45	48	93	9	84 30位
31	安田 光 世	53	46	99	15	84
32	宮木 勇	53	56	109	25	84
33	松浦 英 治	58	56	114	30	84
34	山田 裕 治	60	53	113	28	85
35	菊田 久 久	53	59	112	26	86
36	藤田 忠 正	54	56	110	24	86
37	中田 伸 夫	60	54	114	25	89
38	丸 田 龍 義	61	65	126	36	90
39	飯田 朝 岡	60	60	120	30	90
40	宮野 順 三	56	55	111	20	91
41	中川 明	58	55	113	20	93
42	竹ノ上 幸 一	61	68	129	29	100 B.B.

ニアピン: 南戸 保野 松谷 × 2 次回ハンデー: 和田 25
松浦 広浜 ベスグロ: 広浜 平均ストローク 102

囲碁

第5回 囲碁同好会成績

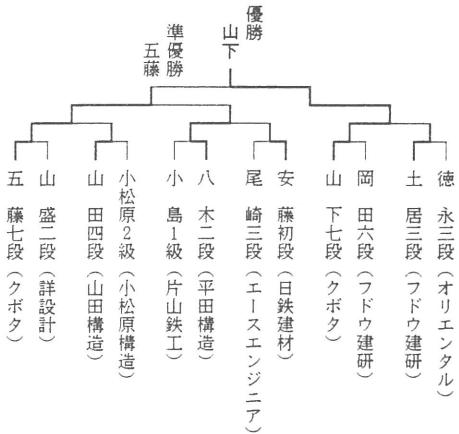
平成2年11月10日
於 囲碁サロン「爛柯」

山下7段 3回目の優勝

この会は、年1回とし、年末の11月に開催しておりますが、今年で早や5回目となり、月日の過ぎる早さと、又、1年間の短かさを痛感しております。

対戦前に協議し、これまで優勝経験のある山下、五藤氏(懶クボタ)の昇段を了解して、本戦を行ないましたが、結果は、二人の優勝決定戦となっていました。いやー強し、強し。

来年こそ、何としてでもこの事をくいとめねばと、皆様の奮闘を期待致す次第です。(山田裕治)



●編集後記

遅くなりましたが、新年号をお届けします。今回は、建築関係各界から構造技術者へのメッセージをいただきましたので今後の業務に多少でも参考になればと思います。会員紹介も引き続き掲載いたします。(本号担当: 長谷川・柏木)

発行(社)日本建築構造技術者協会関西支部事務局
川崎建築構造研究所 TEL (06)227-0534